

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	認知行動科学特論		
英文授業科目名	Topics in Cognitive and Behavioral Science		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	久野 雅樹		
居室	東1-509		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hisano@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>認知科学は、知性をめぐる諸問題について研究する学際的で総合的な学問であり、哲学、言語学、心理学、人工知能学、脳科学など、文理の諸科学と密接な関連をもつ。認知的アプローチは、その生誕から約半世紀の間、行動的アプローチと対比的に語られることが多かったが、認知科学、行動科学の双方において、学問としての成熟が進んだ今日、「認知か行動か」という二者択一的な態度よりも、「認知も行動も」という立場のほうが実際的で有用であろう。そのような背景から、「認知行動科学」という新たな学際総合科学が提案されている。</p> <p>本講義では、言語の問題を中心として、実験、調査、コンピュータシミュレーション等の多様な方法論により得られた認知行動研究の成果を取り上げ、ヒトの知性に関する理解を深めることを目標とする。またこの領域の内容について学ぶとともに、英文テキストを読み、関連文献を参照して調べ、自ら考える力を養う。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
Eysenck, M. W. 2006 Fundamentals of cognition (ペーパーバック). Psychology Press. (予定。別の文献 - 難しすぎず、やさしすぎないもの - に変更する可能性あり)

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

具体的な内容と進め方については、参加者の関心と人数とを考慮して決めたい。上記教科書を使う場合、受講者による発表に基づくディスカッションを中心に進める予定である。また、授業の効果を高めるために、メイリングリストも活用する。

使用予定のテキストの主な内容は以下の通り。

Approaches to cognitive psychology

Visual perception and attention

Learning and memory

Language

Thinking and reasoning

Broader issues

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

発表内容、授業の理解度・参加度、レポート等をもとに総合的に評価する。

以下の2点が単位取得に必要である。

- ・学習内容について基礎的な知識を得ていること
- ・授業に参加していること(最低3分の2以上、出席し、積極的に発言すること)

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日17:00-18:00のオフィスアワーには、原則として研究室にいます。

来室する場合、なるべくメールでアポイントをとるようにしてください(必要があればこの時間以外にも対応します)。

【学生へのメッセージ】

学問的なものであれ、日常的なものであれ、およそ「すべての道は認知に通ず」と言えます。「認知」という観点をもつことによって、今後の研究をはじめとする様々な活動に広さや深さがもたらされたいいな、と思っています。

【その他】

なし